

留学タイプ・国別費用

留学先：アメリカ

プログラム：大学院で修士号取得

期間：2年3か月

●留学費用（約500万円）

生活費…約150万円

学費…約350万円

授業助手などで学費減免措置を受けましたが、それでもアメリカの大学は学費が高いと感じます。私は授業助手をしてお給料をもらっていました。



Jさん H24 (高)

留学先：シンガポール

プログラム：所属大学の協定校の中で学内選考に応募

期間：1年(2セメスター)

●留学費用（約150万円）

Aさん H28 (高)

生活費…約150万円(寮費・交際費・渡航費等含む)

学費…交換留学なので日本の大学の学費のみ。(私の留学した大学だと正規留学では2セメスター約68万円かかります)シンガポールは他の東南アジアの国々に比べて感染の危険性はほとんどありませんが、予防接種の費用が高いです。念の為日本の接種をお勧めします。



留学先：イギリス

プログラム：大学院で修士号取得

期間：1年

●留学費用（約400万円）

生活費…約100万円(自炊中心でかなり節約をしました。)

学費…約300万円(寮費含む)

他国の修士号に比べて期間が1年と短く、密度の濃い短期集中型。学費を抑えられることやキャリアアップを少なくできるメリットがあります。



Rさん H25 (高)

留学先：カナダ

プログラム：在学高校の留学プログラムを利用

期間：1年

●留学費用（約250万円）

生活費…約175万円

(ホームステイ代・サマーキャンプ代・渡航費等含む)

学費…約75万円

留学先の国の物価によると思いますが、私の場合はお小遣いとして月15,000円ほど使っていました。



Mさん H28 (高)

教えて!センパイ

留学体験談



「百聞は一見に如かず！隣国中国で政治・経済を学ぶ！」

★先輩体験談：大内 洸太さん

留学先：中国 北京大学国際関係学院 1年間 H23 (高)

●留学費用（おおそ）

約70万円(寮費含む生活費のみ) ※約6年前の物価
私はダブルディグリー制度(日本の在籍大学と留学先の大学の両方の学位を取得すること)による留学でしたが、交換留学と同じ扱いだったので、日本の大学へのみ学費を支払っていました。
留学先で使う教科書は、20円~30円(日本円で400円程度)だったので日本の大学で使うテキストよりは格段に安かったです。

●留学先を決めた理由

元々中国語を勉強していたのと、急速に発展する隣国中国について、特に自分の専門である政治・経済をもっと学びたいと考え、留学を決めました。そしてせっかく留学するならその国のトップクラスの学生と机を並べ彼らの考えを知りたい、そう考えて北京大学国際関係学院への留学を決めました。



北京大学前

●良かったところと苦労したところ

どこの国への留学でも言えることだと思いますが、「百聞は一見に如かず」を実感することばかりでした。中国というと、とかく「反日」のイメージが付きますが、実際に中国の人々と話していると、皆さん日本に興味津々で、クラスメートだけでなく街で知り合った人々も、私が日本人と分かるやいなや、日本について良い意味で質問攻めになります。歴史や領土等、政治的な問題を含む話題に話が及ぶこともあったのですが、お互い腹を割り、個人としての考えを交換することで、中国の方々の考えを知る良い機会となりました。

イメージだけでなく、その国や人々について語るのではなく実際に面と向かって相手と対話することがいかに重要かを学ぶことができた経験でした。またそれと同時に、自国である日本のことについてもっと知る必要があると痛感したのも、留学先でたくさんの人との出会いがあったからだと思います。

現在の仕事で国際文化交流に関わっておりますが、留学中に学び考えたことは、日々の業務に活かしていると実感しています。



北京大学の構内にある
未名湖と博雅塔

「高校と大学で2回ドイツへ留学！」

★先輩体験談：上野 梓さん

留学先：ドイツ ミュンスター大学 1年間 H28 (高)

●留学費用（おおそ）

約140万円(学費：約10万円 生活費：約130万円)
JASSOの奨学金を毎月8万円受けていたので生活費はそれで賄えました。家賃はシェアハウスで毎月3万円くらい。また、ドイツはとても学費が安く、かつ学費の中にゼメスターチケット代(一定の地区のバス・電車乗り放題)も含まれているので移動費がほぼかからないことも非常にありがたかったです。

●留学先を決めた理由

高校の時にドイツに11か月交換留学をしました。それがきっかけで大学へ進学し再びドイツへ留学したいと考え、大学ではドイツ語学科に入学しました。留学先の学校選びは所属大学の協定先の中から以前留学した地域にある大学を選択しました。語学の習得だけでなく、日本の所属大学では専攻出来ない心理学を留学中に学ぶことも留学の目的でした。

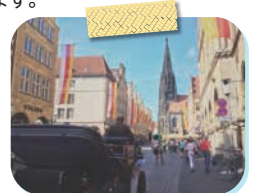


高校生の時の
ホストファミリーと

●良かったところと苦労したところ

やはり留学では、言語の壁だけではなく、慣れない環境にも苦労しました。特に高校の時に初めてドイツへ留学した時は、何軒かお世話になったホストファミリーの中でも、1番初めのホストファミリーとは衝突した時期がありました。それでも、前向きによく話し合うことや気持ちを伝えることで今ではどの家族よりも連絡を取り合い、大学留学の際にも一緒に旅行に出かけるような、私にとっては第2の家族となっています。

大学留学では、ドイツ語と英語の2言語の習得に苦戦しました。授業の際に毎回英語のテキストを大量に読み込んでいく必要があったり、ルームメイトとの会話は英語が多かったからです。そんな時、留学先の大学が紹介してくれた「タンデム」というシステムがとても役に立ちました。このシステムはドイツ語と日本語を相互に学びたいもの同士を引き合わせてくれ、語学を学びあえるシステムです。留学で語学の壁は必ず立ちはたかります。ただ、留学を実際経験してみると言語は現地でもこそ修得出来るものだと感じました。



大学留学の
ミュンスターの街並み